



ななつかの風

畜産技術センターニュース

発行事務局

●広島県立総合技術研究所
畜産技術センター技術支援部
〒727-0023
庄原市七塚町 584 番地
TEL 0824-74-0331
FAX 0824-74-1586

国営時代の事務所（旧本館）

広島県の県北、庄原市七塚町にある畜産技術センターは、今から 100 年以上昔の 1900 年に国営（農総務省）の種牛牧場として設立されました，現在の県立として移管されたのは大正 12 年で，たいへん長い歴史を有している施設です。



中国支場時代の本館

国営時代の事務所である旧本館（七塚原記念館）は 1900 年に竣工，1906 年に修繕され，1975（昭和 50）年に現在の本館が建設され，3 年後に七塚原記念館として昔の資料や地元の農具・民具の展示施設として保存されています。

しかしながら，100 年以上の風雨にさらされ，



近年は外観で建物の老朽化が分かるようになり，内部も雨漏りによって建物自体危険な状態です。



この様に賑やかな時代も…

このような状況から，近年では展示施設としての活用（内部公開）を中止しております。

職員としても，我が国の畜産黎明期を語る歴史ある建造物は保存・活用すべきと思案しておりますが，資金面等のハードルが高く，なかなか対策を打ち出すことができない現状にあります。

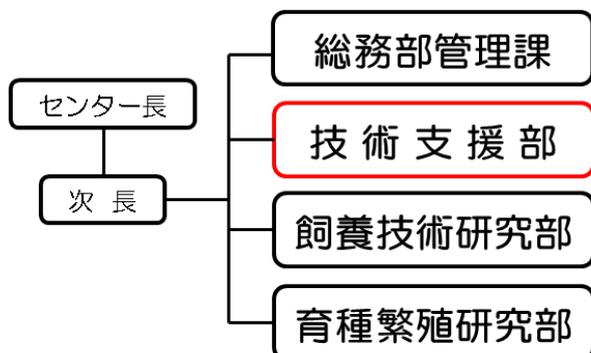
今回，紙面をお借りして記念館の現状を知っていただき，将来の利活用方法を含め，広く皆様方のお知恵をお借りして，より良い対応をとりたいと考えております。



現在の草木に埋もれた記念館

センター紹介

畜産技術センターの組織は、総務部、技術支援部、飼養技術研究部、育種繁殖研究部の4部からなっており、22名の研究職員、5名の事務職員と38名の非常勤職員で運営しております。



県民の皆様方と直接触れあう機会が少ないので、数回にわたって、この場を借りて、センター各部にスポットを当て紹介していきたいと思っております。

第1回目は、外部との窓口業務と研究の進行管理を行っている、技術支援部を紹介します。

部員は3名と小所帯ですが、視察・見学の窓口対応、研究進捗管理、知財管理と所内研修の企画等1年中こまごまとした仕事をこなしております。仕事の内容は裏方に徹していますが、研究の推進のためにはかなり重要なポジションといえる部門です。

それでは、各メンバーを紹介します。

トップバッターは、大坂隆志主任研究員で研修、知財関係や研究進捗管理を担当しています。

最初の勤務地は当センターでしたが食品工業技術センターに異動後は、発酵食品やレモンの研究をしていました。本県には、みそやレモンなど名産と言われる食品が多数あり、これらを更に良いものにする研究をしておりました。

その後、当センターに戻り、ウシの乳量を増加させるための飼養管理技術の開発を担当しました。

これまででうれしかったことは、ある食品企業から長年抱えている課題を解決してほしいという依頼があり、仮説に基づき実験を行い解決の糸口をつかむことができたことです。

また、レモンに関する研究プロジェクトでは困難な目標を達成する必要がありましたが、広島レモン

を確固たるものにしていくという共通認識のもと、上司やチーム員に恵まれた環境の中で、協力して取り組むことができました。

技術支援部で実現したいことは、研究の目的、目標や課題解決方法を明確にしてから取り組むよう支援することです。これができていないと、よい成果は上がりず、担当者が苦しむことになります。

また、当センターには、小学生、大学生、農業者など多くの方が見学、研修に来られます。わかりやすい言葉で丁寧に説明するよう心掛けています。



次は、長尾かおり主任研究員で技術指導事業に関する窓口業務、広報業務などを担当しています。

畜産試験場から畜産技術センターに改称された年、飼養技術部(現 飼養技術研究部)に配属され、和牛の飼養技術・飼料作物の品質評価・畜産環境に関する研究をしていました。

平成20~23年度及び平成27年度は、食品工業技術センター(広島市南区)に異動となり、主に技術支援部で食品企業等からの技術相談の窓口業務に従事しました。食品に関する研究は、より消費者に近い分野であり、おいしさを評価する技術など畜産分野にも応用できる知見を得ることができました。

これまでで、一番楽しかったことは、食品工業技術センターの技術支援部在籍時、朝の情報番組(NHKの全国放送)で凍結含浸技術が紹介された時のことです。当日は問合せの電話が鳴りやまず、相手(福祉施設、食品会社、大学、在宅介護の担い手、

お年寄り など)によって聴き方・話し方を変えなければならずで…。大変でしたが、研究成果に対する期待を実感した出来事です。



技術支援部で実現したいことは、七塚原記念館(畜産技術センターが国の種牛牧場として設立された当時の本館)に保管されていた古い写真を使って、七塚原の歴史を紹介する写真絵本を作ることです。絵本作家になることが、子供のころの夢でした。

ラストは、**尾形康弘**技術支援部長です。 神石高原町油木にあった広島牛改良センターが初任地で、鬼(仏?)のような大先輩に鍛えられながらスタートを切りました。



数年後、核移植(クローン動物作出技術)を習得するため、国の研究機関に派遣され、戻ってくると、畜産技術センター内に新たな研究施設(先端技術研

究棟)が完成しており、広島県として初めての動物のバイオテクノロジー研究に従事しました。平成22年に総合技術研究所企画部に異動となり、ここで新規プロジェクトの立ち上げ、知財管理等に従事した後、西部工業技術センター生産技術アカデミー(東広島市)に異動となり医療機器開発のプロジェクトを担うことになりました。

これまでで一番しんどかったことは、農林水産局畜産課に在籍中、日本で牛海綿状脳症(BSE)が確認されその対策に奔走したことです。一番楽しかったことは、自分が習得した技術を後輩に伝授し、その結果が得られたとき、やっと自分の役割を果たせた瞬間でしょうか。

この技術支援部で実現したいことは、異動を通じて、総合技術研究所8つのセンターの職員と顔馴染みになれたこと、異業種の方と知り合うことができた経験を活かし、このセンターに新しい風を吹き込むとともに、県立総合技術研究所全体での異分野連携の新事業を立ち上げることができればと考えております。特に医療分野での新規事業展開に期待を込めております。

編集ひとりごと

今回、紙面を大幅にリニューアルいたしました。これからも皆様方のお声を反映しながら楽しく役立つ紙面を心掛けてゆきたいと思っております。

トップの肉の写真は、センター職員の披露宴で提供された広島と島根の和牛肉です。どちらもおいしくいただきました。

これから夏休みのシーズンとなります。ぜひ星空のきれいな庄原に来ていただき宇宙を実感していただければと思います。

By おがっち